

あいさつ

「どこへお出掛けですか」と聞かれたことがありますか。こう聞かれると、正直者のわたしは、しばらく考えて、さて何と答えたらいいかと戸惑います。その答えは千差万別です。「ちょっと友達に会いに銀座へ」「用事がある、出掛けます」「天気がいいから、散歩します」、本当にどれでもいいのです。でも、一番多い答えは、「ちょっとそこまで」らしいのです。

先日、ある外国人が、日本人はせんさく好きで、人のプライバシーは一向に構わず、会う度に「昨日は何をしましたか」と聞くし、おまけに外出の際、外で顔を合わせると、「どこへお出掛けですか」と聞かれて嫌になるという話をしてくれました。確かに、やや現代っ子のわたしには、その友人が言うようにプライバシーにかかわる質問と取れないこともないと思います。なぜかという、その答えに「ちょっとそこまで」が浮かばないと、一生懸命答えを探して、ついにプライバシーの一面を話してしまうこともあるからです。

でも、よくよく考えてみると、「どこへお出掛けですか」は質問じゃなくて、あいさつの一つなんです。これは「お元気ですか」と同じようなものだから、「元気ですよ」と言う代わりに「ちょっとそこまで」と言うだけなんです。都会はアパートやマンションが増えて、隣同士でも

めったに顔を合わせる機会がないし、あいさつをする機会もないのです。

このようなことを言うわたし自身も、隣の人にはめったに会わないので、

たまに会った時、どんなあいさつをしたらいいか困ってしまいます。せいぜい口

から出るのは、「おはようございます」、「こんにちは」、「こんばんは」の

どれかというワンパターンです。これでは幼稚園の園児と同じではないか

などと、つくづく感じるのです。

旅先で知り合った中年の紳士に、先日たまたま電車で会って、話が弾み、

あつという間に目的地に着いて、さて、何とあいさつをしたらいいかと

考えあぐねていたら、その紳士から「では、お元気で」とのごあいさつが

出ました。そのあいさつに感じ入ったわたしは、とっさのことに慌ててしまい、

「こちらこそ」などと、トンチンカンでばつが悪い返事をして、自分でも

嫌になってしまいました。しみじみあいさつだけはきちんとできるように

になりたいなどと、その時は思ったものでした。

「皆様、季節の変わり目ですから、どうぞお風邪などお引きに

なりませんよう。」では、お元気で。失礼します。

あいさつ

「どこへおでかけですか」ときかれたことがありますか。

こうきかれると、しょうじきもののわたしは、しばらくかんがえて、

さて なんとこたえたらいいかと とまどいます。そのこたえは

せんさばんべつです。「ちょっと ともだちにあいに ぎんざへ」

「ようじがあって、でかけます」「てんきがいいから、さんぼします」、

ほんとうにどれでもいいのです。でも、いちばんおおいこたえは、

「ちょっとそこまで」らしいのです。

せんじつ、あるがいこくじんが、にほんじんはせんさくずきで、

ひとのプライバシーは いったいにかまわず、あうたびに

「きのうはなにをしましたか」ときくし、おまけにがいしゅつのさい、

そとでかおをあわせると、「どこへおでかけですか」ときかれて

いやになるというはなしを してくれました。たしかに、

ややげんだいこのわたしには、そのゆうじんがいうように

プライバシーにかかわるしつもん とれないこともないとおもいます。

なぜかという、そのこたえに「ちょっとそこまで」がうかばないと、

いっしょうけんめいこたえをさがして、ついにプライバシーのいちめんを
はなしてしまうこともあるからです。

でも、よくよくかんがえてみると、「どこへおでかけですか」は
しつもんじゃなくて、あいさつのひとつなんですね。

「どこへおでかけですか」は「おげんきですか」と おなじようなものだから、
「げんきですよ」というかわりに「ちょっとそこまで」というだけなんです。

とかいはアパートやマンションがふえて、となりどうしても めったに
かおをあわせるきかいがないし、あいさつをするきかいもないのです。

このようなことをいうわたしじしんも、となりのひとには

めったにあわないので、たまにあったとき、どんなあいさつをしたらいいか
こまってしまう。せいぜいくちからでるのは、「おはようございます」、

「こんにちは」、「こんばんは」のどれかというワンパターンです。

これではようちえんのえんじとおなじではないかなどと、

つくづくかんじるのです。

たびさきでしりあった ちゅうねんのしんしに、せんじつたまたま

でんしゃであって、はなしがはずみ、あつというまに もくてきちについて、

さて、なんとあいさつをしたらいいかとかんがえあぐねていたら、

そのしんしから「では、おげんきで」とのごあいさつができました。

そのあいさつにかんじいったわたしは、とっさのことにあわててしまい、

「こちらこそ」などと、トンチンカンではつがわるいへんじをして、

じぶんでもいやになってしまいました。しみじみ あいさつだけは

きちんとできるようになりたいなどと、そのときはおもったものでした。

「みなさま、きせつのかわりめですから、どうぞおかせなど

おひきになりませんよう。」では、おげんきで。しつれいします。

問候句

你是否曾經被問過：「你要到哪裡去呢」？被如此問，直腸直肚的我，就會稍為考慮一會，爲了想該如何回答而困惑。那個答案有很多種。「我到銀座去見朋友」「我有要事要出去一會。」「因爲天氣好，我去散散步」，真是怎麼答也可以。可是，似乎人們通常會回答，「我到那兒去一下」。

前幾天，某個外國人跟我說，日本人很喜歡追根究底，一向也不專重別人的私隱，每次見面都會問你：「你昨天做過什麼呢」，而且每當他外出跟日本人遇上的話，都會被問到：「你要到哪裡去呢」，令他感到十分煩厭。的確，偏向現代人的我，有時候也會覺得就如那個外國人朋友所說，那是條侵犯私隱的問題。因爲如果我想不到可以回答：「我到那兒去一下」的話，我就會努力地找個問案去回答，而不知不覺間透露了有關私隱的事。

可是，仔細想想，「你要到哪裡去呢」這句說話，並不是一句問題，而只是其中一句問候句而已。「你要到哪裡去呢」跟「你好嗎」一樣，只要以「我到那兒去一下」代替「我很好」就行了。在都市裡公寓與住宅日增，鄰居之間甚少見面，就連互相問候的機會也沒有。儘管我如此說，因爲我也是很少遇上鄰居，所以偶爾遇上時該說些什麼問候話才好呢，我也感到很困惑。盡了我最大的努力而說出口的，就只有「早晨」、「午安」、「晚安」等千篇一律的話。細心想想，這豈不是和幼稚園生一樣嗎？

前幾天，我在火車的旅途上偶然認識了一位紳士，二人談得起勁，不一會就到達了目的地。好，該說些什麼寒暄說話才好呢？正想得煩厭時，那位紳士對我說：「那麼，請多多保重」。十分佩服這句寒暄說話的我，突然變得慌張起來，竟說了些「我也是」之類的牛頭不對馬嘴的話。就連我自己也覺得討厭。那時候我心想，我真的很想變得能夠準確地把問候話說好。

「各位，現在是季節轉換的時候，請小心保重身體別染上風寒。」那麼，請多多保重。我就在此失禮了。